

果実生育定期調査から読み取れる特徴と今後の管理

1 リンゴ

県南部の果実肥大は「ふじ」、「王林」が平年並み、「やたか」では平年よりやや小玉傾向となった。糖度は3品種とも平年並みであるが、リンゴ酸含量は平年より少ない。なお、リンゴ酸含量は調査開始（8月1日）時点から平年より10～20%少なく、9月に入り減少は緩やかになった。

「やたか」は8月6半旬以降気温が低下し、特に、9月1半旬には最低気温が15℃を下回ったことと、日照時間が平年より多くなったことから着色が急激に進んだ。一方、デンブンの消失は平年並みのため、収穫期は平年よりやや早まり、収穫始めは9月27日頃と予想される。

県北部の果実肥大は「秋田紅あかり」、「王林」、「ふじ」いずれの品種も平年を下回っている。特に「王林」は開花期間中の天候不順から側果の利用が多く、小玉傾向となっている。糖度はほぼ平年並みであるが、リンゴ酸含量は平年よりやや多い傾向となっている。「秋田紅あかり」は9月1半旬に最低気温が10℃を下回ったことから着色は順調に進んでいる。

台風18号の強風で落果は免れたが樹上で傷ついた果実が見られる。傷が果肉までにおよび腐敗が懸念される果実は商品性がないことから摘み取る。（ニホンナシも同様に）

2 ニホンナシ

「幸水」は平年より小玉傾向のまま、平年より1日遅い8月30日から収穫期に入り、9月15日現在ではまだ収穫中で5～6日遅れの収穫終了と予測される。糖度は平年並みで、リンゴ酸含量はやや多かった。

「豊水」、「あきづき」の果実肥大は回復基調にあるものの平年より小玉である。糖度はほぼ平年並で、リンゴ酸含量は平年より少ない。「豊水」、「あきづき」および「秋泉」は糖度、地色の抜けがほぼ平年並みであることから収穫期は平年並みと予想される。

3 ブドウ

「キャンベル・アーリー」は、8月の低温傾向と日照不足のために糖度は平年より低く、酒石酸含量が多く、収穫期は遅れた。「スチューベン」も糖度は平年より低く、酒石酸含量が多く、着色はやや回復しているものの、収穫期は10月上旬頃と予想される。「巨峰」は、酸抜けがやや遅れているもののほぼ収穫期に達する品質になっている。「シャインマスカット」は、9月1日以降果皮色が進み、糖度の上昇は前年より遅いが順調に進んでいることから、収穫始めは9月22日頃からと予想する。

4 モモ

県南部では川中島白桃の収穫時期は平年並みとなった。果実品質は、8月下旬の日照不足から着色はやや劣り、糖度も平年より低かった。また、収穫直前からの生理落果が多かった。

県北部でも川中島白桃の収穫時期は平年並みとなった。9月上旬の日照時間が平年より長く、果実品質はほぼ平年並みとなった。

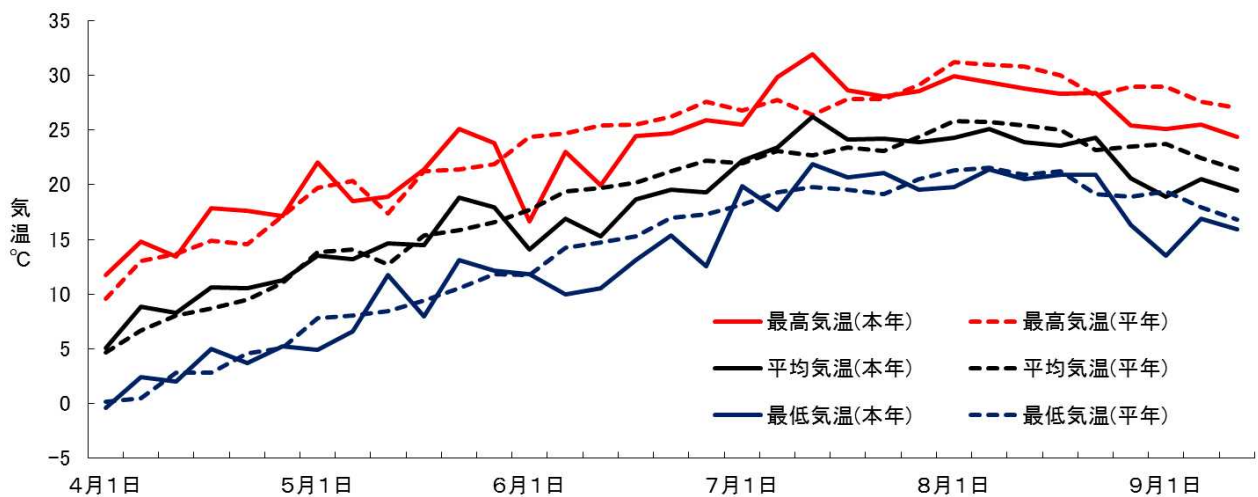


図1 最高・平均・最低気温と平年比較（果樹試験場本場）

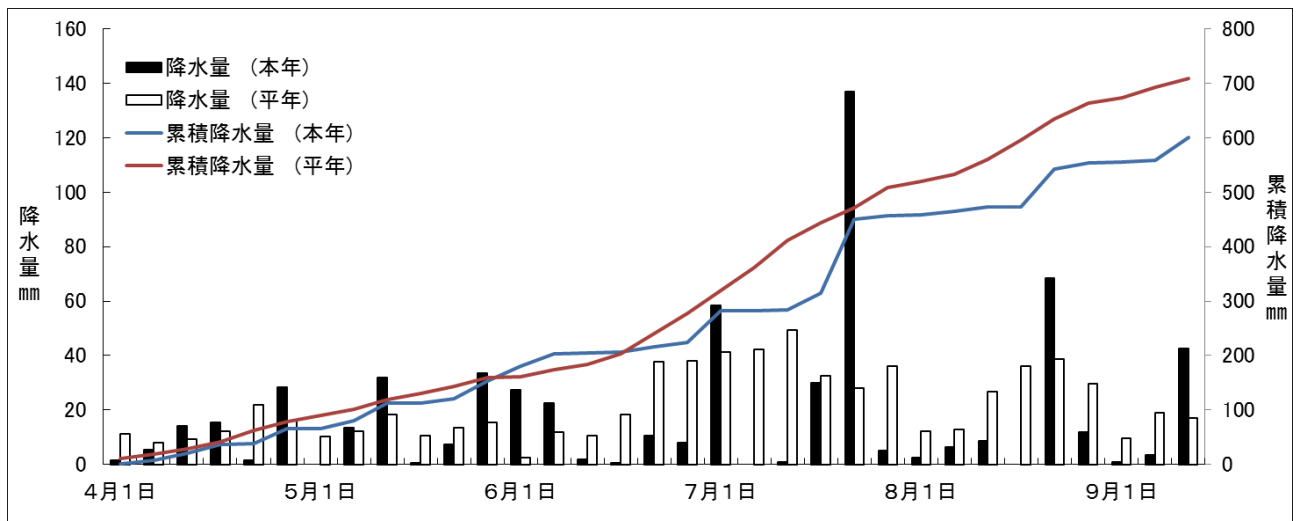


図2 降水量と累積降水量の平年比較（果樹試験場本場）

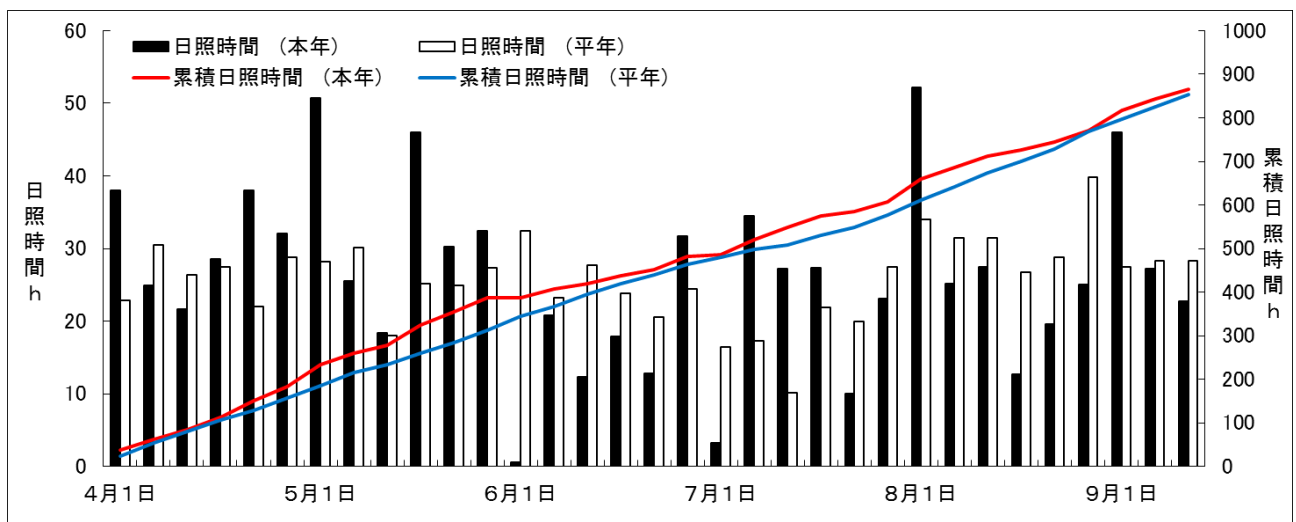


図3 日照時間と累積日照時間の平年比較（果樹試験場本場）